

さぎむすめ まくま みその  
鶯娘 幕間の御園舞台待ち

雪に情念新橋を渡る

令和六年三月二十四日

大中臣正比呂



何度も糸を貫き乱れて舞う、名曲「鶯娘」の変身は迫り来る情念である。

御園座で披露された師範の舞は、名手のタテ三味線が気迫を合せる。

鶯の化身は雪を蹴散らし、新橋を駆けてくる。

花道の席に初めて座ったが、中々よいものだ。